

昭和五十四年十二月招集

第四回館山市議定会定例会會議錄

館山市議會

目次

○第一号(十二月七日)

開 会 六

追悼の言葉 六

黙 禱 七

議長の報告 七

議案の配付 七

会議録署名議員の指名 七

会期の決定 八

会議日程の決定 八

議案第五十一号ノ議案第六十五号(提案理由の説明) 八

認定第一号ノ認定第七号 一一

決算審査特別委員会委員長報告 一二

神田 守隆君の討論 一四

採決 一七

請願第三号 一八

文教民生委員会委員長報告 一八

採決 一九

三芳水道企業団議会議員補欠選挙 一九

延 会 一九

本日の会議に付した事件 二〇

○第二号(十二月十日) 二〇

開 議 二三

行政一般通告質問 二三

古賀礼四郎君の質問、当局の応答 二三

五十嵐 昇君の質問、当局の応答 三一

神田 守隆君の質問、当局の応答 四〇

石井 武敏君の質問、当局の応答 五一

石井 輝久君の質問、当局の応答 六一

散 会 七五

本日の会議に付した事件 七五

○第三号(十二月十一日) 八〇

開 議 八〇

議案第五十一号ノ議案第六十二号 八〇

神田 守隆君の質問、当局の応答 八〇

安西 益男君の質問、当局の応答 八六

石井 輝久君の質問、当局の応答 九二

穴戸 寿夫君の質問、当局の応答 一〇三

当局の応答(答弁保留分) 一〇七

安西 益男君の質問、当局の応答 一〇七

委員会付託 一〇七

議案第六十三号ノ議案第六十五号 一〇七

神田 守隆君の質問、当局の応答 一〇八

石井 輝久君の質問、当局の応答 一二

穴戸 寿夫君の質問、当局の応答 一九

和田 一郎君の質問、当局の応答 二二

委員会付託 二三

請願第四号 二三

説明 二三

委員会付託	一二四
延 会	一二四
本日の会議に付した事件	一二四
○第四号(十二月十五日)	
開 議	一二八
議案の配付	一二八
議案第五十一号、議案第五十六号、議案第六十三号	一二八
総務委員会委員長報告	一二八
安西 益男君の討論	一二八
神田 守隆君の討論	一二八
採決	一二八
議案第五十七号、議案第六十四号	一二八
文教民生委員会委員長報告	一二八
採決	一二八
議案第五十八号、議案第六十二号、議案第六十五号	一二八
建設経済委員会委員長報告	一二八
神田 守隆君の討論	一二八
古賀礼四郎君の討論	一二八
採決	一二八
請願第四号	一二八
建設経済委員会委員長報告	一二八
継続審査について	一二八
議案第六十六号	一二八
議案の内容説明	一二八
委員会付託の省略	一二八

神田 守隆君の討論	一四〇
採決	一四〇
議案第六十七号	一四〇
議案の内容説明	一四〇
委員会付託の省略	一四〇
採決	一四〇
閉 会	一四一
本日の会議に付した事件	一四一

第四回館山市議定会定例会會議錄（第一号）

一、昭和五十四年十二月七日（金曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一 番 神 田 守 隆	二 番 石 井 謀
三 番 網 島 憲 治	四 番 横 溝 功
五 番 福 原 勤	七 番 古 賀 礼 四 郎
八 番 石 井 昌 治	九 番 松 下 正 己
一〇 番 穴 戸 寿 夫	一 一 番 林 豊
一 二 番 栗 原 一 雄	一 三 番 近 藤 好 雄
一 四 番 渡 辺 昭 夫	一 五 番 伊 藤 幸 太 郎
一 六 番 押 元 稔	一 七 番 黒 川 平 治
一 八 番 流 山 源 次 郎	一 九 番 石 井 輝 久
二〇 番 石 井 武 敏	二 一 番 吉 田 勇 治 郎
二 二 番 藤 田 益 治	二 三 番 菊 井 敏 博
二 四 番 和 田 一 郎	二 五 番 五 十 嵐 昇
二 六 番 伊 賀 多 朗	二 七 番 石 井 正
二 八 番 安 沢 徳 順	二 九 番 安 西 益 男
三〇 番 山 口 康	

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

市 長 半 澤 良 一	助 役 小 倉 澄 男
収 入 役 長 谷 川 広 治	市 長 公 室 長 沙 崎 政 光
総 務 部 長 鈴 木 弘 道	経 済 部 長 太 田 博 雄
民 生 部 長 鈴 木 力	水 道 課 長 庄 司 利 光
教 育 委 員 会 山 口 武 重	教 育 委 員 会 安 田 豊 作

選 挙 審 査 委 員 会

委 員 長 鈴 木 正

選 挙 審 査 委 員 会

事 務 局 長 渡 辺 弘

監 査 委 員 齊 藤 一 男

監 査 委 員 齊 藤 一 男

監 査 事 務 局 長 角 田 巖

農 業 委 員 会 長 秋 山 萬 次

農 業 委 員 会 長 秋 山 萬 次

事 務 局 長 石 原 齊

一、出席事務局職員

事 務 局 長 高 尾 豊

事 務 局 長 補 佐 石 井 敏 夫

書 記 兵 藤 恭 一

書 記 兵 藤 恭 一

書 記 兵 藤 恭 一

書 記 庄 司 徹

書 記 庄 司 徹

書 記 庄 司 徹

一、議事日程（第一号）

昭和五十四年十二月七日午前十時開議

日程第一 會議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 會議日程の決定

議案第五十一号 新たに生じた土地の確認について

議案第五十二号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて

議案第五十三号 新たに生じた土地の確認について

議案第五十四号 新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて

議案第五十五号 財産の取得について

議案第五十六号 工事請負契約の締結について

議案第五十七号 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十八号 事務の委託について

議案第五十九号 市営土地改良事業の施行について

日程第四

議案第五十八号

事務の委託について

議案第五十九号

市営土地改良事業の施行について

議案第六十号 館山市国民宿舍事業の設置等に関する条例の制定について

事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第六十一号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

認定第七号 昭和五十三年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

日程第六 請願第三号 請願書

日程第七 三芳水道企業団議会議員補欠選挙

議案第六十二号 市道路線の認定及び廃止について

予算(第二号)

開 会 午前十時三十七分開会

議案第六十三号 昭和五十三年度館山市一般会計補正

特別会計補正予算(第二号)

議案第六十四号 昭和五十三年度館山市国民健康保険

特別会計補正予算(第二号)

議案第六十五号 昭和五十三年度館山市水道事業特別

会計補正予算(第二号)

認定第一号 昭和五十三年度館山市一般会計歳入

歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十三年度館山市国民健康保険

認定第三号 昭和五十三年度館山市と畜場特別会

計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和五十三年度館山市国民宿舍特別

会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和五十三年度館山市ユースホステ

ル特別会計歳入歳出決算の認定につ

いて

認定第六号 昭和五十三年度館山市学童災害共済

追悼の言葉

○議長(石井 正君) この際御報告申し上げます。

本市議會議員鈴木活龍君には九月十九日午前九時十六分急逝されました。ここに慎しんで哀悼の誠をささげ御報告申し上げます。

このことについて安西益男君より発言を求められておりますので、暫時これを許します。

(二九番議員安西益男君登壇)

○二九番(安西益男君) ただいま議長から報告のありましたとおり、鈴木活龍議員には九月十九日急逝されました。

ここに同僚議員の御同意をいただき、議員一同を代表いたしまして、慎しんで哀悼の意を表します。

願ひまするに、君は埼玉県大里郡岡部村において、久保田開司氏の二男に生まれ、昭和三十三年から鋸南町存林寺において僧侶

としての修業をつまれ、昭和三十九年市内坂田西方寺の住職となり、また八幡区の区長として区民のよき相談相手となり、地域の発展にたゆまない努力を続けてまいったと伺っております。

生来資性温厚にして情誼に厚く、特に青少年健全育成に意を注ぎ、ボーイスカウトの指導にあたつては、カブスカウト隊長、安房地区指導委員長、安房地区事務長等として活躍された実績は高く評価され、ボーイスカウト千葉県連盟から県連有功賞の荣誉に輝く等、本事業の推進に挺身されたのであります。

このような人徳は申すまでもなく、多くの人々から敬慕され、本年四月執行の市議会議員選挙に立候補、衆望をにないみごと初当選の榮に浴されたのであります。

自来、議会人としての職責に徹し、総務委員会委員、三芳水道企業団議会議員、社会教育委員として市政振興に寄与され、今後のご活躍を期待しておりましたところ、突如悲しき訃報に接し、ただただ驚愕のほかなく、誠に痛恨の極みであります。

いまや地方自治体における行政は低成長下、高度化、多様化の一途をたどり、当市におきましても難問が山積しているとき、君の卓越した手腕が期待されたのでありますが、いまここにかけがえのない人材を失い、当市にとつても大きな損失として惜しみてもありあるものがあります。

常日頃、元気に登庁された姿もいまはなく、君の議席である六番は空席となつてしまつたのであります。

いま、君の議席に花束をささげ、館山市議會を代表いたしましたここに故鈴木活龍議員の功績をたたえ、その風格をしのび、心から御冥福をお祈りいたしまして、追悼の言葉といたします。

黙

禱

○議長(石井 正君) この際、故鈴木活龍君の靈に慎しんで黙禱をささげ、御冥福をお祈りしたいと思います。

御起立願います。黙禱始め。

(起立、黙禱)

○議長(石井 正君) 黙禱終了。御着席願います。

議長の報告

○議長(石井 正君) 本定例会議案審議のため、地方自治法第二百一十一条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がございましたので御了承願います。

なお、監査委員より八月乃至十月実施の監査結果が報告されております。それぞれお手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

○議長(石井 正君) ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。配付漏れはございませんか。配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長(石井 正君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

五番議員福原 勲君、二四番議員和田一郎君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長（石井 正君） 日程第二、会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本十二月七日から十二月十五日までの九日間ということであります。

お諮りいたします。会期を九日間と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて会期は十二月七日から十二月十五日までの九日間と決定いたしました。

会議日程の決定

○議長（石井 正君） 日程第三、会議日程の決定を行います。

お諮りいたします。お手元に配付いたしました会議日程表は本定例会の大体の日取り予定であります。議会運営協議会の意見により作成いたしました。

本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますとともに、その間議案の追加または議事の都合等によりましてその都度これを改めることにして、大体このようにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて会議日程は決定いたしました。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第四、議案第五十一号乃至議案第六十五号を一括して議題といたします。

提案理由の説明

○議長（石井 正君） 市長から提案理由の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに第四回市議定会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様方におかれましては、年末御多忙のところを御出席賜り、誠にありがとうございます。

今回、提出いたします案件は、条例関係議案三件、一般議案九件、補正予算三件であります。

以下、その概要について御説明申し上げます。

まず、議案第五十一号乃至第五十四号については、新たに生じた土地の確認及び新たに生じた土地を市の区域内に編入することについてであります。これは、果知事から船形漁港及び富崎漁港の公有水面埋立てにより新たに生じた土地の確認並びに字の区域の画定について依頼がありましたので、地方自治法の規定に基づき船形地先の公有水面埋立地千四百三十九・四八平方メートル及び相浜地先から布良地先に至る公有水面埋立地八千六百二十一・一〇五平方メートルのそれぞれの土地を市の区域内に新たに生じた土地として確認の上、市の区域内に編入しようとするものであります。

次に、議案第五十五号財産の取得についてであります。これ

は、本年度着工を予定しております館山市衛生センターの建設につきまして、このほど、昭和五十四年度国庫補助事業として認められ、補助金の内示がありましたので、建設予定地として出野尾地先の土地十三万三千三百四十一平方メートルにつきまして、福本広志氏ほか四名の方々より三億七千八百七十五万五千五百円をもつて買収しようとするものであります。

次に、議案第五十六号工事請負契約の締結についてであります。これは厚生省補助事業として実施する館山市衛生センター建設工事につきましてアタカ工業株式会社と九億二千百万円をもつて地方自治法施行令第六十七条の二第一項第二号の規定による随意契約により工事請負契約の締結をしようとするものであります。これはアタカ工業株式会社の新処理技術であるエスジェットエアレーションシステムによる高負荷酸化処理方式が当市に最も適した方式であることによるものであります。なお、この方式については、県及び厚生省と協議いたしました結果、妥当であるとの回答を得ております。

工事の内容としましては、受入貯留設備、反応槽設備、分離槽設備、遠心分離設備、凝集沈殿設備、砂ろ過設備、活性炭吸着処理設備、消毒槽設備、脱臭設備、焼却設備等を備えた一日の処理能力が百キロリットルの近代的な施設として建設しようとするもので、工期を昭和五十七年三月三十一日までとするものであります。

次に、議案第五十七号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。公の施設として完成した出野尾青年館について、その名称及び位置を条例

別表中に新たに加え、適正な管理、運営を図ろうとするものであります。

次に、議案第五十八号事務の委託についてであります。これは、館山市及び三芳村の両市村にまたがる農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業を市営土地改良事業として施行するにあたり、三芳村に係る事業に関する事務の管理及び執行を地方自治法第二百五十二条の十四第一項の規定に基づき別記事務委託に関する規約案により三芳村が館山市に委託をしようとするものであり、この受託について同条第三項の規定により議会の議決を求めるものであります。

次に、議案第五十九号市営土地改良事業の施行についてであります。これは市営土地改良事業を施行するにあたり、土地改良法第九十六条の二第二項の規定に基づき議会の議決を求めるものであります。本事業は、館山市と三芳村にまたがるため館山市を事業主体として施行するものであり、農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業により、館山市竹原字横枕から同字柳作を経て三芳村御庄字西ヶ谷に至る区間二千四百八十メートルを全幅員五・〇メートル、有効幅員四・〇メートルに改良、新設し、幹線農道として整備しようとするものであります。

次に、議案第六十号 館山市国民宿舎事業の設置等に関する条例の制定についてであります。館山市国民宿舎事業鳩山荘の改築工事も本年度中に竣工される見込みであり、この完成に伴って近代化された国民の健全な保健休養施設として、また、公営企業として能率的、経済的な運営を図るため、地方公営企業法の財務規定等を適用させるため、必要な事項について定め、昭和五十五

年四月一日から施行しようとするものであります。

なお、館山市国民宿舍の設置及び管理に関する条例及び館山市特別会計条例について、それぞれ所要の改正を行うものであります。

次に、議案第六十一号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回建設省から公営住宅の収入基準等の改定通知に基づき、所定の改正を行うため、条例の一部を改正しようとするものであります。今回の改正の主なもの、公営住宅の入居基準と収入超過基準にかかる割増賃料に関するものであり、割増賃料の改正は、昭和五十五年四月一日から、他の改正は公布の日から施行し、昭和五十四年十一月二十四日から適用するものであります。

次に、議案第六十二号市道路線の認定及び廃止についてであります。これは、鷹の島から沖の島に至る県有地を防衛庁が払い下げを受けるについて、市道西原富士見線の認定及び廃止をするものであります。

次に、議案第六十三号館山市一般会計補正予算第二号についてであります。まず歳入歳出予算の補正といたしまして歳入歳出それぞれ六千六百六十三万七千円を追加し、歳入歳出それぞれ八十四億二千六十六万一千円とするものであります。

歳出のうち主なものとして、総務費関係では、安房郡市広域市町村圏事務組合総務費負担金として百八十二万八千円、防災対策費として耐震性井戸付貯水装置設置工事費九百万円、竹原地区県営は場整備事業に伴う消火栓設置補助金二百十三万円、災害復旧資金貸付金四百万円の追加とまた、昭和五十三年度老人

医療費負担金の精算による返還金千三百四十二万六千円。

衛生費関係では、正木処理場の投入口、焚口等の補修にかかる工作物等工事請負費として八百十五万円、自動車購入費八百万円の減額、衛生センター建設事業費については、当初二カ年継続事業として計画いたしました。が、国の補助財源の関係で補助対象事業が三カ年に変更されたことにより、三カ年継続事業に変更するもので、これに伴い建設事業費が七千二百四十四万四千円の減額となります。これは、工事請負費で一億六千九百四十四万四千円の減額と、建設用地及び搬入車道路用地購入費八千二百万円、立木補償費千四百七十八万六千円等の追加によるものであります。

農林水産業費関係では、水田利用再編対策関係補助金として千四百七十六万四千円、畜産農家のふん尿処理に伴う公害の解消と地力向上を図るための畜産複合地域環境対策事業補助金の追加分として三百三十一万一千円、転作を推進するため水田の乾田化整備を図るための中里地区土地改良事業委託料として九百五十四万二千元、稲作期間中に土地改良事業を行う農家に対しての土地改良通年施行促進対策事業補助金として三百八十一万円、これは、いづれも事業費の増及び国、県補助金の追加、変更に伴う補正であります。

水産業振興対策としては、館山湾漁場開発調査研究委託料百万円、これは、東京水産大学に館山湾の漁場調査を委託するものであります。また、東京湾で操業する旋網漁業の安全操業を図るための漁網漁具の改善に対しての補助金として千七百七十一万円、布良、相浜両漁業協同組合が共同で設置する水産倉庫建設事業に対する補助金の追加分として九百八十五万円。

二の 内

商工費関係では、工事請負費六百八十六万九千円、これは長須賀ほか三カ所の公衆便所建設費と果より払い下げを受けました旧相浜グレート公衆便所の改造に要する経費等であります。

土木費関係では、都市下水路測量ほか一件の委託料で七百一十二万円、川名橋架換工事請負費の計画変更に伴い、街路工事請負費で千五百二十二万円の減額、また事業費及び負担率の減少に伴う館山運動公園整備事業負担金で二千五百五十万円の減額であります。

教育費関係では、西小学校擁壁補修工事請負費で三百万円、第三中学校の備品購入費で千三百二十万円、第三中学校の建設に伴う柔道場及びバックネット新築工事請負費等で二千九百九十四万円の追加であります。

災害復旧費関係では、土木施設災害復旧費として八百九十六万一千円、これは、本年一月下旬の集中豪雨による長田川及び塩見川の河川災害復旧工事請負費等であります。また、教育施設災害復旧費として七十七万四千円、これは、本年十月の二十号台風による北条小学校校舎のガラス破損被害の修繕工事請負費であります。

以上、歳出の主なものについて御説明申し上げましたが、これが財源としては、分担金、国、県支出金、地方債等の特定財源で四千六百三十七万三千円、市税千五百二十六万四千円をもつて充当しようとするものであります。

なお、このほか継続費の補正として、衛生センター建設費について、当初二カ年継続事業であったものを三カ年継続事業とするための変更、債務負担行為の補正として、館山市地形図作成委託料の追加、また地方債の補正として、衛生センター建設事業債は

か七件の変更に伴う補正があります。

次に、議案第六十四号館山市国民健康保険特別会計補正予算第二号についてであります。歳入歳出それぞれ二千三百七十六万六千円を減額し、歳入歳出それぞれ十七億七千九百七十五万七千円としようとするものであります。

これは、診療費の減少による療養給付費三千五百六十五万九千円の減額と昭和五十三年度療養給付費国庫負担金の精算による返還金千五百二十八万三千円の追加によるものであります。

次に、議案第六十五号館山市水道事業特別会計補正予算第二号についてであります。水道の新規加入者の増加に伴い給水戸数を五十戸追加し、合計一万二百五十六戸にするともに、収益的支出の予定額を二十一万九千円追加し、総額四億千七百八十八万六千円にするものであります。また、資本的収入及び支出の予定額をそれぞれ四百二十一万五千円追加し、総額二億五千二百二十五万二千円にするものであります。

その主なものは、動力費、燃料費の不足分及び水道施設の工事請負費等であります。

以上、各議案に対する提案理由について御説明申し上げましたが、この会期中に任期満了となる館山市教育委員会委員の任命について、また、目下欠員中の人権擁護委員候補者の推薦についても追加議案として上程をお願いする予定であります。

何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で提案理由の説明を終わります。

議 案 の 上 程

○議長（石井 正君） 日程第五、認定第一号乃至認定第七号昭和五十三年度一般会計並びに各特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました各会計決算は、ともに去る九月開会の第三回市議会定例会において、特別委員会を設置し、閉会中の継続審査に付されたものであります。

よつて、これより本決算に対し決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

決算審査特別委員長和田一郎君。御登壇願います。

（決算審査特別委員会委員長和田一郎君登壇）

○決算審査特別委員会委員長（和田一郎君） 認定第一号乃至認定第七号昭和五十三年度各会計決算にかかる決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。去る九月六日の本会議におきまして、閉会中の継続審査として本委員会に付託されました決算につき、十月二十三日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

本決算につきましては、すでに監査委員によりまして計数の正確性、予算執行状況の適否等総合的な監査が実施され、その結果計数は正確であり、予算の執行はおおむね所期の目的に沿い、適法かつ効率的になされている旨の決算審査意見書が付されておるところであります。本委員会としては議会の立場より付託の趣旨を体しまして審査を行いました。

審査にあつては、提出された説明資料に基づき、市当局の考

えをただし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主な点について御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出、総務費防災対策費中、地域防災計画について説明を求めたところ、五十三年度において一応完成したが、実効性あるものにするため今後も常時検討を加え、逐次修正する予定である、さらに地震対策については、いままですに科学的なデータがなかつたが、現在基礎調査を行つており、それが完了した時点で地域防災計画の中で取り組んでいくとの考えが示されました。

次に、民生費において二千五十九万円の多額の不用額が出ており、この理由について説明を求めたところ、この不用額の主なものは老人福祉費中特に老人医療に関するものであり、予算計上にあつては過去の実績によつて積算しているところであるが、五十三年度については暖冬の影響等によつて例年に比べ非常に医療費の支出が少なかつたことによるものであるとの説明がありました。

さらに、生活保護費において、生活扶助費、住宅扶助費等を社会情勢の変化に伴つてスライドさせていく考えはないかとの質問に対し、現在生活扶助費については一人当たり月額二万一千七百四十三円、住宅扶助費については三千七百四十二円が支給されており、これは生活保護法による保護基準によつて保護費の給付を行つてゐるが、保護基準については毎年定期的に改定されている

のでその中で考えてまいりたい、なお五十二年度から五十三年度的上昇率は一％であつたとの回答がありました。

次に、衛生費において、環境衛生費中主要な施策に関する報告の中で水質検査六十四件と述べられており、この検査の内容と、この中に一般井戸の水質検査が含まれているか説明を求めましたところ、水質検査については、環境対策ということで、海、河川、処理場施設周辺の水質検査であり、井戸水については含まれていない、井戸水あるいは水道の水質検査は、原則として毎月第一月曜日に実施しており、緊急な場合には臨時的に行う、結果が出るまでには一週間ほど要するとの説明がなされました。

次に、労働費中、勤労者団体補助金については、市内事業所の労働団体の健全な組合活動、あるいは明るい職場づくり、労使関係の正常、安定化、勤労意欲増進を目的として、地区労に対し補助をしている旨の説明がなされました。

次に、農林水産業費についてであります、主要な施策の成果に関する報告の中で、原材料支給により農業用施設の整備保全に努めたと述べられておりますが、具体的な内容について質問したところ、地元農家組合からの要請に基づき現場を確認し、材料を支給することによつて補修できるところに対し「字溝、生コン、砕石を支給しており、農業用配水路の整備をした、さらに配分にあつては一組合七万円を限度とし、五十三年度においては四十六組合に交付した旨の回答がありました。

次に、商工費であります、当市はこれまでに商店街に対する調査、診断を数多くやつてきたと思われるが、その実施は非常に遅れていると考える、当市の商店街の現況から、調査、診断等の

結果に基づき早急に商店街の整備を図るよう要望いたしました。

次に、観光費中、本市の海水浴場開きの時期については例年他市町村に比し遅いように思うが、この時期については検討する考えはないか質問したところ、市として海水浴客に責任を持つという意味での海水浴場開きをしているわけで、やはり監視体制が十分に整わなければ市として正式に開くわけにはいかないが、今後検討したいとの答弁がありました。

次に、土木費については、年度中途における補正予算をもつて二〇％近くが増額計上されているものの、本市の道路事情等を考へて、当初予算から積極的に対応されるようとの意見がありました。

次に、教育費、保健体育費中報償費に多額の不用額が出ていることにかんがみ、予定された行事が消化できなかったのかとの質問に対し、スポーツ教室等全部計画どおりに行つたとの回答があり、不用額については講師が学校の職員であつて勤務時間内であつたこと、さらに市の職員の講師もいたということで、講師謝礼において減額できたとの説明がなされました。

次に、公債費についてであります、公債費支出の限度については幾度となく本会議においても論議されているところであり、本委員会としても五十三年度決算審査にあたり市の考え方をただしたのに対し、五十三年度公債比六・六％であり、他の団体と比べても少ない方である、あまり大きくなると制限を受けることになるが、そのへんを勘案しながら健全な財政運営に努めたいとの考えが示されました。

次に、歳入についてであります、市税、道路占用料、住宅使

用料等につきまして、特に収入未済額、不納欠損額等について論議がなされ、負担の公平、財源確保の上から徴収に一段の努力を要望いたしました。

次に、寄附金中、市道、消防関係寄附金については、従前より地域の要望に基づき、市では一定の目安をもつて受け入れているところであるが、状況の変化等から検討すべきではないかとの質問に対し、今後徐々に減らす方向で進めていく旨の回答がありました。

次に、国民健康保険特別会計中、国保税において百三十二万円、諸収入において五万六千円の不納欠損が出ており、監査委員意見書によるといずれも時効によるもので処分手続き等は適正になされておらずを得ない措置と認められるとありますが、本委員会としては負担の公平を期するため今後一層の努力を要望いたしました。

次に、国民宿舍特別会計におきまして、事業収入の落ち込みの原因について説明を求めましたところ、建物が老朽化して客が減つたためであるとの回答がありましたが、施設の全面的な改築に伴い、関係者のより積極的な経営努力を要望いたしました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げますが、本決算書を総体的に見ますと、予算議決の趣旨に沿つておおむねその目的を達し得たものと認め、市当局の努力に対し敬意を表するところであります。

今後、なお市当局におかれましては、財源の確保と合理的な予算執行により市民福祉の向上と市勢の伸展を図られるよう希望するものであります。

以上、本委員会は、付託を受けました認定第一号乃至第七号昭和五十三年度一般会計並びに特別会計各決算は全員一致をもつていずれも認定すべきものと決しました。

ここに、決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げた次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、委員長報告を終ります。

○議長（石井 正君） 以上で委員長の報告を終ります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 昭和五十三年度一般会計の歳入歳出決算の認定に反対の討論をいたします。

五十三年度一般会計決算は、歳入で七十二億三百万、歳出で七十億二千九百万、差し引き一億七千四百万の黒字決算となっております。しかしながら繰越金二億一千五百万を差し引けば単年度収支では四千百万の赤字であることは決算にかかる主要な施策の成果に関する報告のとおりであります。

しかしながら、さらに重要な問題は、歳入で八億八千二百万の

市債があり、市債の元金の償還に充てた歳出が五億七千七百万で、すから、結局この間差し引き三億五百万ほどが市の借金がふえたことであります。要するに借金をふやして帳じりで金を余らせたというのがこの黒字であります。実質的には一億三千万円の赤字であります。こうした市債の増大は財政不健全化の指標となるものであります。市債は額においても五十年年度の二・六四倍、決算に占める構成比においても七・五%から一二・二%へと増大しています。こうした市債の増大はやがてそのツケが市民に回ってくるものです。

歳出の面で見ると、公債費が五十三年度は五十年度に比べて四・二六倍、構成比でも四・二%から一一・三%へと大幅にふえています。二億一千八百万、市民一人当たり年間三千八百円、四人世帯平均で一萬五千円余りを利子として払っているわけでございます。ツケがいよいよ回ってきたと言わなければなりません。

このような中で、五十三年度の決算は市民収奪の決算となつていると言わなければなりません。市長は市民生活優先人間尊重を主張しています。事実は逆であります。五十三年度決算の使用料及び手数料は一億六千五百万、五十年度に比べて三九・一六%、構成比においても一%から二・三%へと増大しています。予算に比べても七百四十万増の決算を得ているわけです。特に市民センター使用料は予算千百万円に対し三百万円を超過をしているわけで、市民が営利を目的としない利用については、市民生活優先の主張どおり料金を値下げするよう要望いたします。

次に、寄附金であります。内容的には市道舗装三百四十八万七千円、消防関係三百五十五万六千円、青年館建設二百二十万、

漁港整備四百二十一万二千元等はいずれも公共事業であり、市個有の事務として公費で負担すべきものであります。強制に類する寄附はないとの答弁を得ているわけですが、それは当然のことでもあります。たとえ任意寄附であれ市民にとつては税外負担となることは明らかであります。また、市当局が任意による寄附を予算化するというのは理解できないところであります。市民相互の負担の公正を期するために寄附金そのものの予算化をやめるよう主張いたします。

市税についてであります。監査委員の決算審査意見書に述べられておりますとおり、徴収率が低下しているわけで、一億三千四百万の収入未済となつております。

そのうち、特別土地保有税は調定額に対して二千九百万、実に一九・二%が収入未済となつています。全収入未済額の二二%を占めているわけです。この特別土地税は昭和四十四年以降の都市計画区域を有する市町村にあつては五千平米以上の土地の保有、あるいは取得に対し課税されるものであります。市民の目から見れば、それこそ我が家を建てるために五十坪単位の土地を購入するのにきゆうきゆうとしているわけです。このように四十四年以降五千平米、千五百坪以上の広大な土地を占有し、これといった用途に供しない土地、いわば値上がりをもつてもうけを得ようという土地、これに対して課せられる特別土地保有税の収入未済が一・九・二%もあるということはとうてい承服できないものです。しかも五十四年度末までにその半分程度の徴収見込みであるというのではなおさらのことです。

収入未済額総額の四七%を占めるのが固定資産税の収入未済で

あります。調定額に対しては七・三％が収入未済となつています。固定資産税は所得の有無には関係なくかかる税であるために、低所得者には大変な負担となります。こうした数字は長引く不況という経済状況の中で、市民の生活をめぐる現況の厳しさを市民の担税力の低下という形で表わしているものと考えます。固定資産税の増税には特にこうした現況、市民生活優先の立場からとらえ、低所得者に対する減免措置など十分に講ずるべきではないかと主張するものです。

歳出の面では、民生費が構成比において一九・五％と低下をしたことは重大です。こうしたことの背景には金をあげるばかりが福祉ではない、お年寄りの敬老祝金五千円を三千円程度の品物にかえて、それを依然として増額しようとしないうる福祉への冷たい姿勢があります。こうしたお年寄りや身体障害者や生活困窮者に対する補助金等の抜本的な増額をするよう要望いたします。

また、保育所費の超過負担の解消に努力するとともに、館山市の保育料が三歳未満児でD8、D9の階層で三万五千三百円、三万五千八百円となり、家計の大きな負担になっています。三万円以上の高額の保育措置費をなくすよう要望いたします。

さらに、産業の振興についても、農林水産業費に至つては構成比が五十二年度に比べて四・八％から四・〇％に低下したばかりか、決算額そのものが七百万円も減少しているのであります。また、予算対比の決算額も九八・七％の執行率であり、不用額を多く出しています。こうしたことが産業の振興に努めてきたとは言いがたいわけであります。

また、交際費については、五十二年度に比べて八十万円ほどふ

えて四百九十万となつていますが、これは市政遂行上の潤滑油などとしていますが、もちろん市長の立場からどうしても必要なものもあるでしょう。しかし、議員を招待して交際費で接待する、こうしたことが二回行われているわけで、こうしたことは、市民の目からは納得できないものですし、しかも使途については公表できないというのでは何ら納得できるものではございません。

以上、昭和五十三年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定にあたり、人間尊重、市民生活優先のスローガンとはうらはらに、この一年間の市政が市民の要望にこたえるものではなく、反市民的なものになつてゐることをこの決算が示していることを指摘し、認定第一号昭和五十三年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定に反対するものであります。

次に、国民健康保険特別会計の歳入歳出の決算認定に反対の討論をいたします。

国民健康保険特別会計は、歳入で十五億五千七百万、歳出で十四億九千六百万、差し引き六千百万円の黒字となつています。前年度の繰越金が七千二百万円ほどあるので、単年度収支では一千百万円の赤字であります。

国民健康保険税は五億三千二百万円、対前年比で二一・七％の歳入増となりましたが、この保険税の大幅な増加は税率のアップによるものであり、こうした中で収入未済額も六千百万円にのぼり、調定額に対して一〇・三％を占め、対前年比二五・六％と増加しています。不納欠損額は百三十二万九千円になり、対前年比四〇・八％も増加しています。こうした数字が意味するところは、国民健康保険税が市民生活の上で大きな重荷となつていて、納税

不能の状態が特殊な問題としてではなく、かなり広く普遍的な状態として存在しているということがあります。もはや市民の保険税の負担は限界点に近いということがあります。

老人保険医療制度を公費負担で国保とは別建てにし、国保財政の負担を軽減して、保険税の安定化を図るべきときであります。とりあえず一般会計からの繰り入れをして、国保税の軽減を図るべきで、繰り入れをしても国保税の軽減に充てられなければ何にもなりません。少なくとも当面助産費、葬祭費、育児費など、医療に関係のない費用相当分は一般会計から繰り入れをして、保険税を軽減すべきことはもちろんであります。

以上を要望いたし、認定第二号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定に反対するものです。

最後に、認定第七号五十三年度館山市水道事業特別会計決算についてひと言申し述べます。

それは、五十三年度で五千百万円の赤字を出したということで、その中には減価償却費四千八百万円が含まれているので、実質赤字はわずか三百万円ということです。しかも赤字の原因は審査意見も述べているように支払い利息一億四千万によるところが大きいわけです。コスト面からすると、水は実に三三・二％が利息ということであります。

この赤字についての解決策は、早急かつ慎重に十分検討されるよう審査意見は述べていますが、その利息に対する補給をして、コスト負担を軽くすべきであると考え、主張いたします。以上で討論を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決にあたりましては分括して採決いたします。

まず、認定第一号昭和五十三年度一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第一号についての委員長の報告は、認定すべきであるとす
るものであります。委員長
の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よつて認定第一号昭和五十三年度一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第二号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第二号についての委員長
の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よつて認定第二号国民健康保険特別会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第三号乃至第七号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第三号乃至第七号についての委員長
の報告は認定すべきで

あるとするものであります。委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて認定第三号乃至第七号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

請願書の上程

○議長(石井 正君) 日程第六、請願第三号請願書を議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました請願書は、去る九月開会の第三回市議会定例会において文教民生委員会に閉会中の継続審査に付されたものであります。

よつて、これより本請願書に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長栗原一雄君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長栗原一雄君登壇)

○文教民生委員会委員長(栗原一雄君) 去る九月開会の第三回市議会定例会において閉会中の継続審査として本委員会に付託されました請願第三号について、十一月九日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

審査にあたりましては、青年館の利用状況、維持管理費の状況、県下各市の運営状況等について積極的な質疑が行われました。

特に、市当局より、青年館は県の施策として青少年の健全育成の立場から設置されたもので、維持管理について基本的には県の運営基準等を尊重して一切を地元へ委託する方針を堅持していくが、請願の趣旨についても理解できるので、今後検討して趣旨に沿うような方向で考えたい旨の説明があり、本委員会といたしましては請願第三号請願書について全員一致をもつて採択すべきものと決定いたしました。

以上、本委員会に付託されました請願審査の概要を御報告申し上げます。満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。

○議長(石井 正君) 以上で委員長の報告を終ります。ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

よつて、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。

よつて、討論を終結いたします。

採決

○議長(石井 正君) これより採決いたします。

請願第三号についての委員長の報告は採択すべきであるとするものであります。請願第三号を委員長の報告どおり採択すべきも

のと決しますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて請願第三号は採択すべきものと決しました。

三芳水道企業団議会議員補欠選挙

○議長(石井 正君) 日程第七、これより三芳水道企業団議会議員補欠選挙を行います。

この補欠選挙は、鈴木活龍君が去る九月十九日死去されましたので、組合規約第七条第二項の規定により行ひます。お諮りいたします。選挙の方法は地方自治法第百十八条第二項の規定により指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて選挙の方法は指名推選によることと決しました。

お諮りいたします。指名の方法は議長において指名することにしたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて議長において指名することに決しました。

三芳水道企業団議会議員に黒川平治君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました黒川平治君を三芳水道企業団議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて指名のとおり黒川平治君が当選されました。

ただいま当選されました黒川平治君が議場にいられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

延 会 午前十一時三十五分延会

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明八日及び九日は議案調査のため休会、次会は十二月十日午前十時開会とし、その議事は通告による行政一般質問を行います。

この際申し上げます。各議案についての質疑通告の締め切りは十二月十日正午まででありますので、申し添えます。

○ 本日の会議に付した事件

一、追悼のことば

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、会議日程の決定

一、議案第五十一号乃至議案第六十五号

一、認定第一号乃至認定第七号

一、請願第三号

一、三芳水道企業団議會議員補欠選挙